

## 平成 28 年 第 7 回男女共同参画セミナーを終えて

2016 年 9 月 16 日から 19 日まで沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開催された日本植物学会第 80 回大会において、学会二日目の 17 日に男女共同参画セミナー「研究者だからこそ！裁量労働制を活用した柔軟な研究と育児の両立に向けて」をランチの形式で開催しました。当日 150 個用意したお弁当がほぼすべて配布され、多くの方にご参加いただきました。

開催にあたり、戸部学会会長のご挨拶の中で、本学会が目指す「男女が共に能力を活かし活躍する場」としての学会活動の実現に向けた働きかけの効果の一例として、女性代議員比率の上昇（第二期：10%強→第三期：20%超）が紹介されました。

今泉（安楽）温子男女共同参画委員長からは、本学会の女性学会員比率は、学生は約 40%であるのに対し、学会員全体では 20~25%に低下することから、女性が継続して学会員として活動できる環境整備の必要性が示されました。また、2008 年より開始された学会内保育所が認知され、その利用者が毎年度増加してことも報告されました。

続いて、今泉（安楽）委員長より、裁量労働制は、仕事を「時間軸」ではなく「成果軸」でとらえる制度であること、研究開発職は専門業務型裁量労働制が適用される職種であり、多くの研究機関において、従来の標準時間制から裁量労働制へとシフトしつつあることが紹介されました。さらに、裁量労働制は直接的な育児支援ではないものの、勤務時間を自分の裁量で決めることにより、研究と育児の両立にフレキシブルに対応できるメリットがある旨の報告がありました。

続いて、日原由香子埼玉大准教授の司会によるパネルディスカッション「研究と育児の両立～研究者だからこそそのアプローチ」では、永田典子日本女子大教授、大窪（栗原）恵美子理研特別研究員と近藤（小山内）久益子東京工業大研究員の計 3 人にパネリストとして登壇していただきました。それぞれの研究・育児の両立履歴の解説に続き、所属研究機関の育児支援制度～研究所内保育所（りけんキッズ）、研究支援員雇用経費の支援（日本女子大・理化学研究所・東工大）、育児のための付加的休業システム（理化学研究所）～が紹介されました。また、研究時間の制限をいかに乗り越えるかについて、パートナーとの分担を含めた家事の効率化、研究室での時間の有効利用、同僚・上司とのコミュニケーションを通じた効率的な研究の進め方などの「両立術」が紹介されました。

BSJ 日本植物学会  
第7回 日本植物学会男女共同参画ランチオンセミナー

研究と育児の両立を目指す研究者に、研究者ならではの「柔軟な働き方」から考える。

研究者だからこそ！  
**裁量労働制を活用した柔軟な研究と育児の両立に向けて**

9/17 (土)  
12:30~13:30  
A会場

ランチ付  
当日朝、先着150名様に受付付近でランチ引換券を配布します。引換券をお持ちでない方も参加していただけます。

会長挨拶  
戸部博 日本植物学会会長、京都大学 名誉教授  
日本植物学会における男女共同参画の現状  
今泉（安楽）温子 農研機構 上級研究員

パネルディスカッション  
「研究と育児の両立～研究者だからこそそのアプローチ」  
永田典子 日本女子大理学部 教授  
大窪（栗原）恵美子 理化学研究所バイオマス光学研究部門 特別研究員  
近藤（小山内）久益子 東京工業大学化学生命科学研究所 産学官連携研究員  
司会：日原由香子 埼玉大学大学院理工学研究科 准教授

日原准教授からの「今回のランチオンでは、手厚い育児支援制度を構築している研究機関が紹介されたが、支援制度の構築途上にある研究機関では、どのように対処したらよいか？」との問いかけに対し、永田教授からは「自分が所属する研究機関のサポート制度についての情報収集、さらに両立支援制度の構築に向けた働きかけが大切では」とのアドバイスをいただきました。大窪、近藤研究員からは「自分が選んだ『研究スタイル』を周囲に伝えるとともに、自分が所属する研究機関の支援制度への問い合わせを通して、『このような制度を作ってほしい』という積極的な意思表示が必要だと感じ、実行している」とのコメントをいただきました。これを受け、永田教授からは「研究職は、裁量労働制を選択できる『恵まれた』職種であると positive に捉え、所属研究機関への働きかけも含めて、柔軟に研究と育児を両立してほしいとのコメントがありました。

最後に、今回のランチオンセミナー開催にあたり、お世話になった学会運営委員の方々、パネリストをお引き受けいただいた皆様、本会の活動を支えてくださった戸部学会会長に感謝いたします。

男女共同参画委員会委員：寿崎・今泉



パネルディスカッションの様子